

COOP SAPPORO CSR REPORT 2020

コープさっぽろCSRレポート2020

つなぐ
COOP
SAPPORO

Anniversary
55th



COOP SAPPORO CSR REPORT 2020

コープさっぽろCSRレポート2020

編集方針

コープさっぽろは、2005年から「環境・社会貢献報告書」の発行を始めました。2007年からはコープさっぽろの社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)の視点から活動を報告する「CSRレポート」にあらため、多様なステークホルダーの皆さまの関心に応える情報開示に努めてきました。

コープさっぽろのCSR活動は「事業」と「組合員活動」の両面から成り立っています。報告にあたっては、コープさっぽろの基本姿勢に則して推進している日々の活動の方針や内容を、その進捗状況とともに報告することを基本としています。持続可能な社会の実現に向けてコープさっぽろが果たすべき役割は何か、そして、どのような取り組みを行っているのか、活動の一部ではありますが皆さまにお伝えできれば幸いです。

● 報告対象期間

2019年度の主な活動を中心にまとめていますが、補足的に当該年度以前の情報、2020年度以降の継続的な活動や将来の目標も報告しています。また、事業概要は2020年3月20日現在のものです。

● ホームページでの情報公開について

コープさっぽろでは、情報の開示にあたり、本レポートのほかにホームページを活用しています。ホームページには本レポートの記載内容に加え、2019年度事業報告、損益状況などのより詳細な情報を掲載しています。(当該情報に関するホームページの公開は、2020年6月を予定しています)

ホームページURL

<https://www.sapporo.coop/>

● 発行年月及び次回発行予定

2020年5月発行

次回は2021年5月の発行を予定しています。

CSRレポートに関するお問合せ先

生活協同組合

コープさっぽろ 秘書室

〒063-8501

札幌市西区発寒11条5丁目10-1

TEL. 011-671-5602

CONTENTS

コープさっぽろの伝言(新理念体系) 01

TOP MESSAGE 02

特集 持続可能な地域社会づくり

～北海道でSDGsを推進していくために～ 04

2019年度活動報告

人と人をつなぐ事業の輪 10

人と食をつなぐ事業の輪 16

人と未来をつなぐ事業の輪 22

2019年度環境活動報告

TOPICS 2019 27

環境理念と環境方針 28

環境データ報告 28

コープさっぽろの組織概要

基本情報 30

組合員動態 31

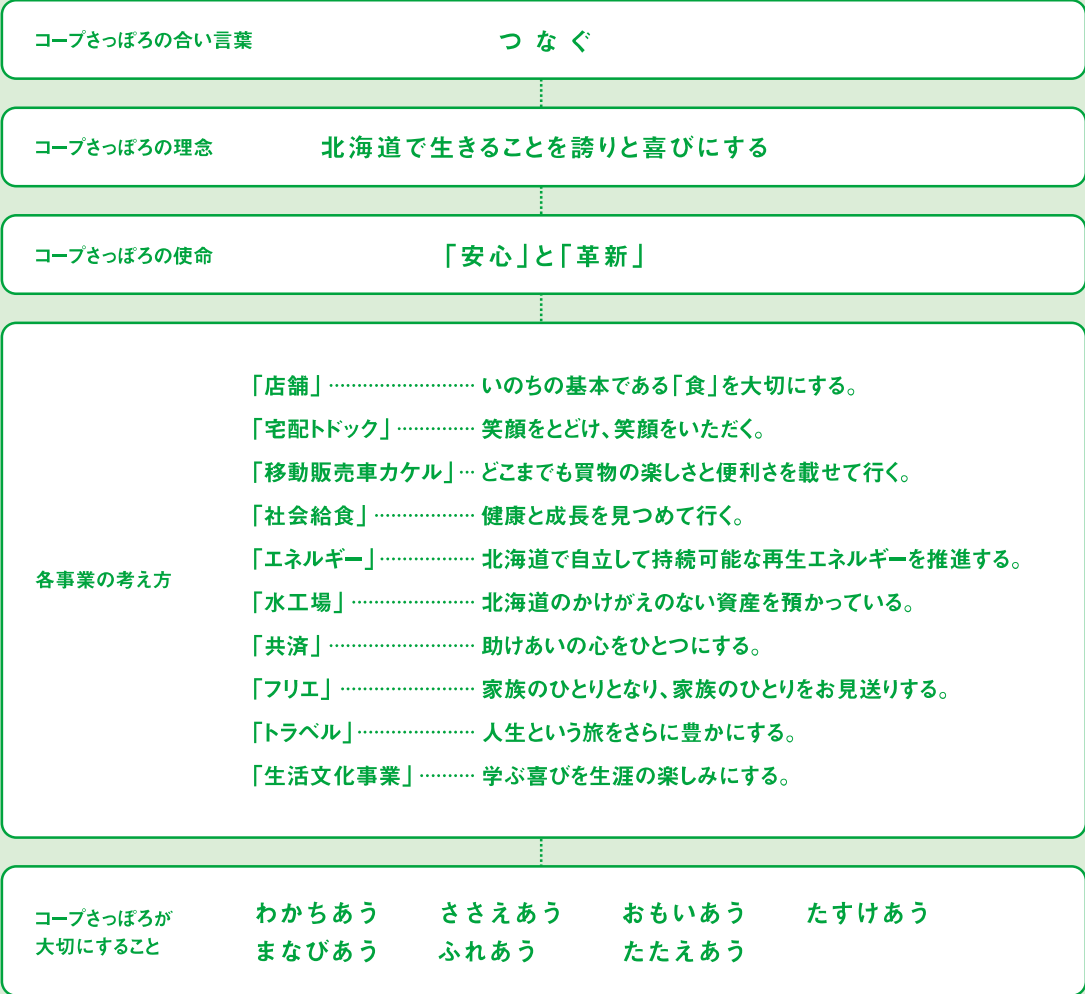
事業所数と形態 32

コープさっぽろの活動に対する期待と意見 33

つなぐ
COOP
 SAPPORO

組合員さんや職員の強い願いと思いから生まれた新しい取り組みに掲げる「安心」と「革新」の旗印です。
 安全・安心を感じ、新鮮で若々しく、生命力を感じるコープグリーンを全道へ拡げていきます。

コープさっぽろの伝言（新理念体系）



震災から学び、何を努力したか 災害への緊急対応力向上へ

2018年9月、北海道胆振東部地震と全道的なブラックアウト(停電)で道内経済は大きな打撃を受けましたが、コープさっぽろは震災当日も宅配ドックが全世帯配送を行い、募金や避難所の支援などさまざまな行動と対策に取り組みました。しかし、その時にできなかったことがあります。それは、ブラックアウト(停電)のため石狩工場を含む全道7か所の配食工場が稼働できなかったことです。このため、コープさっぽろは、2019年度の課題の一つに「大規模災害への緊急対応能力の確立」を掲げ取り組んできました。

コープさっぽろは、北海道との包括連携協定をはじめ、道内各自治体ともさまざまな災害時における相互応援協定を結んでおり、災害が起こったときには真っ先に地域貢献することを使命と考える組織です。大規模災害では、国や自衛隊が体制を整え活動を行うまで、発生から初動の3日間に物資供給ができるかどうかは鍵になりますが、ブラックアウトで稼働できなかった経験を踏まえ、石狩工場ではオンサイト事業

(自家発電設備の設置)を開始、ガスコージェネレーションによる自家発電を可能とし、365日間災害時も停電時も止まらない工場に変えるとともに、道内6配食工場には非常用発電機を設置しました。

また、災害時の飲料水の供給のため、東川町とともに運営している「大雪水資源保全センター」では、ボトリングしている「大雪旭川源水」を道内7か所で1万5,000ケース備蓄するなど、有事の際の緊急対応能力をより一層高めることができました。

組合員180万人達成の中 利用という支持も増すために

2019年度のもう一つの課題は、消費税増税です。増税の年は需要が冷え込みますので、他小売業との同質的競争の中で利用高の減少が起こりました。また、消費税増税への対応策であったキャッシュレス消費者還元事業(5%還元)に対する申請が最終的に却下され、同事業の転換を余儀なくされましたが、2020年度も組合員さんの支持を受け利用高を拡大していくために、もう一段階の努力をしていきたいと思っています。

こうした中でも、コープさっぽろの組合員数は前年から5万人増え、2020年1月14日には組合員数180万人に到達することができました。全道の世帯数が278万世帯なので組合員組織率が約65%に達したことになりますが、最終的には80%を目指していきたいと思っています。

コープさっぽろ理事長

大見 英明



未来に「つなぐ」役割を果たします。

増える一人世帯にも 利用しやすい店舗・宅配へ

組合員さんの支持拡大の一つで大きな課題として捉えているのが、この十数年間の中で一人世帯の増加が顕在化しているということです。「なかのしま店(札幌市)」のリニューアルの際に調べてわかったことですが、店舗の周辺500mにある世帯の58%が一人世帯でした。高齢化すればするほど、今は少子化の問題もあるので一人世帯は今後も増え、全体として世帯数も増えていくでしょう。それに対する対応は事業上の重点となります。

一人世帯に対する対応力を課題とした原点は、コープさっぽろが長年続けてきた店舗事業において「一人暮らしの方がスーパーマーケットを利活用できるのか?」というところにあります。そして、コープさっぽろが提供する商品、その品揃えがミスマッチになっていないかという気づきになりました。そこに特化をしていくため、一定の価格競争力は維持しながら、農産・畜産・水産の生鮮3部門で、ご家庭ですぐに食べられる品目を増やす「大惣菜化プロジェクト」を2020年2月から順次進めています。また、一人暮らしの方でも「コープさっぽろの店舗は利用しやすい。」と言っていたような環境を準備する取り組みも進めています。

それと同時に宅配事業でも、一人でも消費できる量目の見直しや、商品の使いやすさ、簡単・便利さへの改善など一人暮らしの方の利便性に配慮した商品開発力を上げていくことで、一人世帯への対応力を向上させていきたいと思っています。

厳しい状況の中でこそ 頼られる存在であるために

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年2月28日に北海道は緊急事態宣言を発出しました。外出自粛や休校・休業などの要請は道民生活に大きな影響を与え、日増しに深刻さを増しています。コロナ禍による先の見えない不安感に加え、感染防止のための人の行動規制によって、实体经济が事実上の停止状態に入り、経済的な生活不安が同時に深刻さを増しています。この感染症が一日も早く終息することを願っていますし、北海道において感染防止としてできることは積極的に取り組んでいきます。どんな状況においても、生活の基本である食料品の提供という役割は、果たし続けなければなりません。これも過去に経験のない仕事になりました。店舗では、ソーシャルディスタンス(社会的な距離)を保って利用いただくことや、組合員さんと職員の接触感染防止のためのマスク・手袋の着用、レジでのお買い上げ商品の読み上げの中止などさまざまです。残念ながら、全国規模での行動制限による食料品の一部の入荷遅れなど、ご迷惑をおかけする事態も一時的に発生しますが、協力いただいている生産者や取引先の皆さんとしっかり連携を図って、問題を解決していきたいと思っています。そして組合員の皆さんへのご協力やご理解と合わせて、引き続きこの困難に立ち向かっていきたいと思っています。



特集

持続可能な地域社会づくり

～北海道でSDGsを推進していくために～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)は、2030年に向けて、国連のすべての参加国が合意した世界共通の目標です。世界的であると同時に、それぞれの地域社会が直面する課題でもあります。高齢化と人口減少に端を発する地域社会の問題を解決すること。自治体や事業者、教育機関など、地域に関わる人々を「つなぐ」こと。コープさっぽろは取り組みを続けてきたことを強化して、SDGsを広げることで持続可能な北海道の実現を目指します。



コープさっぽろのこれまでの取り組みとSDGsのつながり

1 貧困をなくそう



家庭の経済的事情から進学を断念する子どもが一人でも減らせるよう、コープさっぽろでは2017年から**奨学金**の取り組みを行っています。次世代を担う子どもたちの健やかで心豊かな成長のために、奨学金返済に苦しむ学生や新入職員をサポートし、優秀な人材の育成を目指します。

2 飢餓をゼロに



飢餓の問題は、先進国が食料を輸入で集めたり、環境に負荷をかける農業を行ったりすることでも加速していきます。コープさっぽろは持続可能な農業に取り組む生産者を**コープさっぽろ農業賞**で応援するほか、世界基準で安全・安心な方法で生産された食品を扱ってきました。また、食品ロスを発生させないよう**フードバンク**の取り組みも行っています。

3 すべての人に健康と福祉を



あらゆる世代の健康を安全・安心な食の提供からスポーツイベントの開催まで、さまざまな面から守る取り組みを行っています。特にご高齢の方々が元気に長生きできるように、産官学で連携して運動の機会を提供する「**まる元・ゆる元**」の取り組みや、認知症予防、**高齢者見守り**などを重点的に行っています。

4 質の高い教育をみんなに



子どもたちには**食べる・たいせつフェスティバル**を中心とした食育や、子育て世帯に無償で絵本を届ける**えほんがトドック**などの健やかな成長を支援する活動を行っています。

5 ジェンダー平等を実現しよう



ファーストチャイルドボックス・コープチャイルドボックスの取り組みをはじめ、妊娠・出産・育児とその後の成長まで、各年代で必要な**子育て支援**を行っています。

6 安全な水とトイレを世界中に



災害時に飲料水を供給できるよう、「**大雪水資源保全センター**」で製造している「**大雪旭川源水**」を道内7か所で15,000ケース備蓄しています。



2011年の東日本大震災と原発事故から**再生可能エネルギー**への取り組みを本格化させています。バイオガスプラントの研究やメガソーラー発電所の運営に加え、2016年からはドック電力で再生可能エネルギーを中心に構成した電力小売事業にも取り組んでいます。



すべての人に働きがいのある仕事を提供することは、地域と人をつなぎ、地域を守ることに繋がるとコープさっぽろは考えます。そこで障がい者雇用、高齢者の雇用、海外からの実習生の受け入れなど、**雇用**への取り組みも進めています。



コープさっぽろは生産から物流、販売までの機能と施設・設備を持つため、北海道のインフラの一つと自らを位置づけており、その機能を強化し地域にさまざまな形で提供を進めています。2019年には宅配ドックの商品倉庫に自動倉庫型ピッキングシステム「**オートストア**」を導入しました。



ユニセフをはじめ、災害や困難にあった人に**募金**を集めたり、被災地でのさまざまな支援活動で助け合いを実現させています。また、生活に欠かせない灯油などの価格交渉や、**署名活動**などで、誰もが住みやすい地域づくりを目指しています。



地域で暮らすために必要な機能が、買物ができる場所です。コープさっぽろは**宅配ドック**で全道をカバーするほかに、過疎地域への出店や**移動販売車**など**買物対策**を行ってきました。また、各自治体とは**高齢者見守り**や**災害時の支援**などの協定を結んでおり、密接な連携で地域を守っています。



規格外で廃棄されていた品質に問題のない**ぶこつ野菜**の取り扱いや、店舗の近郊の生産者の**ご近所やさい**の取り扱いなど、生産から販売まで無駄のない仕組みを取り入れてきました。また、宅配の戻り便を利用して資源を**エコセンター**に集め、リサイクルの仕組みを回しています。



2008年の洞爺湖サミットから環境問題への取り組みを本格化させたコープさっぽろでは、環境負荷のかからない店舗づくりや事業所のシステム導入などを進めてきました。また、**国際イニシアチブRE100**に加盟し、再エネ電力100%の普及・活用にも取り組んでいます。



2008年から続けている**コープ未来の森プロジェクト**では、魚付林の植林にも助成を行っています。また、組合員活動の中で海洋プラスチック問題を取り上げ、札幌圏の10店舗に**ペットボトルの小型減容回収機**を設置しました。



2008年に「**コープ未来の森づくり基金(あずもり)**」を設立し、この基金のもと、全道各地で植樹を進めています。また、**ホッキョクグマ応援プロジェクト**で生態系を守るための基金や啓発活動を行っています。



被爆地を訪問し、若い世代に平和の思いを継承するための**平和スタディツアー**を毎年実施しています。



コープさっぽろは生産者と消費者(組合員)をつなぐことをはじめ、産官学連携や、同じテーマに取り組むべき事業者・団体の間などをつないで、常にパートナーシップを築いて課題解決を進めています。SDGsへの取り組みについても、パートナーシップで広く北海道に拡げていくことを目標としています。

SDGsの取り組みを全道に拡げるために

SDGsを実現させていくには、コープさっぽろが取り組むだけでなく、企業・団体など北海道で事業を行う人たちに、それぞれ取り組みを進めてもらう必要があります。そのための仕組み作りを2019年度に開始しました。

北海道SDGs推進プラットフォームの設立

SDGsの取り組み事例を共有し協働につながる場が誕生

道内企業・団体のSDGsへの関心を実際のアクションにつなげるためには、事業の中でどのようなことに取り組めばいいのか、先進事例の共有が必要です。コープさっぽろは、2019年7月24日に北海道でさまざまな分野の事業を行う17団体（コープさっぽろを含む）と共に「北海道SDGs推進プラットフォーム」を立ち上げました。世界の企業や組織におけるSDGsへの取り組みの先進事例を共に学び、また、参加企業・団体での取り組み

を報告し合い推進事例として共有していく場として活用します。また、参加企業・団体による連携が事業の効果を上げる場合は、検討して可能であることを実施していくことを目指しています。



北海道SDGs推進プラットフォーム
設立時の会見

SDGsの第一人者たちに学ぶ「SDGs研究会」

SDGs推進プラットフォームの下にはSDGs推進委員会が置かれ、委員長を大見英明理事長が務め、事務局をコープさっぽろが担当しています。推進委員は、参加企業・団体以外にも学識者など多分野のステークホルダーで構成しています。

推進委員会では「SDGs研究会」として、SDGsの専門家やジャパンSDGsアワード受賞企業・団体、各目標にかかわる課題を研究する学識者などを講師に招き、その考え方や最新事例について学ぶ機会を作っています。2019年度は2回の研

究会を開催し、第1回は「SDGs概論」、第2回は社会的関心の高い「プラスチック問題」をテーマに取り上げました。次年度からは年4回の開催を予定しています。SDGs研究会を通して事業者の交流と連携・協働も進め、北海道全体にSDGsの取り組みを拡げていきたいと思っています。



第1回 SDGs研究会の様子



	開催日	内容	参加者数
第1回	2019年10月18日	基調講演：「企業がSDGsに取り組むべき理由とその手法」 SDGsパートナーズ有限会社代表取締役 CEO 田瀬和夫氏 研究報告：「北海道におけるSDGs：それぞれが望む社会に向けてのきっかけ」 北海道大学 大学院地球環境科学研究所 山中康裕氏 事例報告：「持続可能な地域社会の実現に向けて～SDGs 未来都市しもかわ～」 下川町政策推進課 SDGs推進戦略室 袁島豪氏	108団体・254名
第2回	2020年1月17日	基調講演：「プラスチック問題から考えるSDGs」 共同通信社 編集委員兼論説委員 井田徹治氏 研究報告：「知っておきたい、プラスチック問題」 国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 田崎智宏氏 事例報告：「サントリーグループのサステナビリティ経営～プラスチック戦略について～」 サントリーホールディングス株式会社 コーポレートサステナビリティ推進本部 北村暢康氏 事例報告：「トッパンサスティナブルパッケージに関する各種活動のご紹介」 凸版印刷株式会社 生活・産業事業本部 川田靖氏	134団体・326名

北海道を持続可能な地域社会としていくために

SDGsの実現は、目の前にある北海道の地域社会が抱える課題解決にもつながっていきます。持続可能な地域社会に向けた2019年度の重点的な取り組みや、そのための基盤づくりとしてのパートナーシップ締結の取り組みをご紹介します。

地域に必要な機能の維持～買物不便対策

地域の商店の負担を減らす 仕入れ代行の取り組み

過疎化と人口減少の中で、地域において住民が買物できる小売店がまったくなくなるエリアが北海道内に現れています。コープさっぽろはこれまで、自治体からの要請を受け、美唄市の峰延農協Aコープのフランチャイズ出店、北竜町商業活性化施設COCOWAへのスーパーマーケット出店を行い、買物不便者を発生させない取り組みを進めてきました。

過疎地域の小規模商店にとって大きな負担となるのが、仕入れに関わる物流コストです。コープさっぽろには全道の店舗と宅配の拠点に物を届ける物流網があるため、商品の仕入れ業務に困る地域の店舗を支援することができます。

2019年4月25日からは、妹背牛町の要請を受け「フレッシュマートしんたに」へ仕入れ機能の提供を開始しました。同店をコープさっぽろの仮想新店として登録し、発注システム・POSレジを導入することで、同店からの発注商品をコープさっぽろの物流ルートでお届けすることができるようになりました。

また、2019年6月17日には、留萌市の株式会社中央スーパーと業務提携を締結し、共同仕入れ・物流を中心に、人材やノウハウの交換などさまざまな面で協力しています。これにより、同社が出店する増毛町・遠別町・天塩町の買物環境も維持できました。



「フレッシュマートしんたに」の支援は、町や町商工会とも連携した取り組みとなりました

買物不便地域への 出店も続ける

2019年7月12日には、小売店舗のない知内町に「しりうち店」をオープンしました。売場面積約200坪の店内には、地元知内町の農協・漁協・生産者の商品を揃えています。

また、町がデマンドバス(予約の乗り合いバス)を運行するため、店内に休憩所・バス待合スペースを併設しました。地元産の木材の椅子やテーブルを配置し、知内町の昔ながらの木の香りが広がる空間をつくり上げています。



町が運行する知内町デマンドバス



しりうち店

SDGs推進の基盤を強化する～自治体や企業・団体との連携強化

まちづくりの連携を 連携中枢都市圏に広げる

地域社会に向けた取り組みを行うには自治体との連携は必須であり、コープさっぽろは、道内各自治体とさまざまな協定を結んできました。特に、札幌市とは2011年11月8日に「まちづくりパートナー協定」を締結し、環境や子育て支援などの取り組みをまちづくりと一体化し、地域社会を強固にする取り組みを続けてきました。

現在、地域において、コンパクト化とネットワーク化によって少子高齢社会に対応し、一定の圏域人口の下、活力ある社会経

済を維持するため、市町村連携でつくる連携中枢都市圏の形成が進められています。そこで北海道で形成された「さっぽろ連携中枢都市圏」と2019年7月12日にまちづくりパートナー協定を締結しました。

さっぽろ連携中枢都市圏

札幌市、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町の全12市町村



地域の企業とノウハウを共有し 北海道経済の向上を目指す

北海道の地域経済を活性化し、サービスを向上させていくためにも、道内企業と協力関係を築いていくことは重要です。2019年12月20日にはサツドラホールディングス株式会社と包括業務提携契約を締結しました。商品の調達や物流での効率化のため「北海道MD機構」を設立しました。今後はポイントサービスの拡大や地域貢献活動などでの協力を目指して取り組みを進めます。



食品系はコープさっぽろ、非食品系はサッポロドラッグストアを主体にノウハウを共有していきます

サツドラホールディングス株式会社との提携内容

- 取り扱い品目の商流および物流
- 商品開発
- 決済・ポイントなどの各種サービス
- システム開発
- 地域課題解決に向けたCSR活動
- など

地域社会を支える未来の 人材育成へ～高校・大学との連携

SDGsは、教育現場でも取り上げられています。そこで、第1回SDGsクリエイティブアワードに映像作品を出展するなど、SDGsに先進的な取り組みを行う札幌慈恵学園札幌新陽高等学校と2019年9月15日に業務提携を行いました。また、12月19日には学校法人北海学園と業務提携し、北海学園大学とも相互協力して地域社会の抱える課題に取り組んでいくこととなりました。

同高校や大学の生徒・学生たちには、インターンシップやボランティア参加などさまざまな形を通じて、コープさっぽろが行う環境問題や食品ロスなど社会の課題への取り組みを学ぶ機会を提供していきます。また、教育機関との相互協力の下、北海道の将来を若者たちと共に考え、持続可能な地域社会の実現に向けて人材育成を進めていきます。

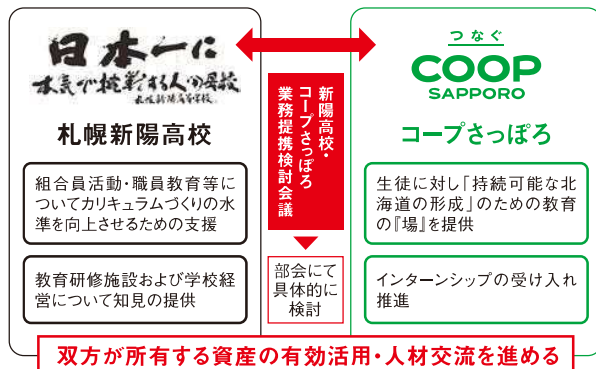


札幌新陽高校との調印式



北海学園大学との調印式

札幌新陽高校との業務提携



2019年度活動報告 Challenge for SDGs

コープさっぽろでは、「人・食・未来」を「つなぐ」ことを目標に毎年さまざまな事業を行い、SDGsすべての実現を目指しています。

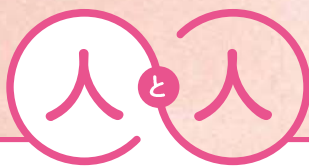
取り組みが貢献するSDGs

取り組みのテーマ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----

人と人をつなぐ事業	コープ宅配システム「トドック」	P10			●					●		●	●					
	高齢者・独居世帯の「見守り」の取り組み	P11		●								●						
	トドックステーション	P11			●	●						●						
	店舗での取り組み	P12										●	●	●				
	移動販売車「おまかせ便カケル」	P13		●						●		●						●
	超高齢社会へ向けた取り組み	P14		●								●						●
	ライフプランアドバイザーの活動	P15		●	●													
	コープの家族葬「フリエ」	P15		●								●						

人と食をつなぐ事業	コープの配食クルリン	P16		●								●	●					
	安全・安心な食の提供	P17		●								●	●					
	食べる・たいせつフェスティバル2019	P18	●	●	●	●		●			●	●	●	●	●	●		●
	トドックフードバンク	P19	●	●									●					
	食育研究会	P20		●	●								●					
	畑でレストラン	P20											●					
	魚の調理教室	P21				●							●		●			
	農業賞交流会	P21											●		●	●		
	こどもレストラン料理教室	P21				●							●					

人と未来をつなぐ事業	えほんがトドック	P22			●	●												●
	奨学金への取り組み	P22	●		●			●				●						
	ファーストチャイルドボックス・コープチャイルドボックス	P23				●						●						
	おしごとキッズ	P23			●							●						
	雇用への取り組み	P24						●		●	●							●
	再生可能エネルギーへの取り組み	P25						●		●	●	●	●	●	●	●		
	エコセンターの取り組み	P25			●			●		●	●	●				●		
	台風被害への緊急支援募金	P26										●						●
	ユニセフ指定募金「インドネシア・パプア地域識字率向上プロジェクト」をスタート	P26				●												●
	平和スタディツアー	P26				●						●					●	



2019年度活動報告

をつなぐ事業の輪

仲間をつくること、集える場所をつくること、そのために地域の方々と協力関係をつくること。地域とそこに住む方々を守っていくために、コープさっぽろは人のつながりを大切にしています。



コープの目標 商品のお届けをきっかけに、組合員さんとのつながりを深める

コープ宅配システム「トドック」

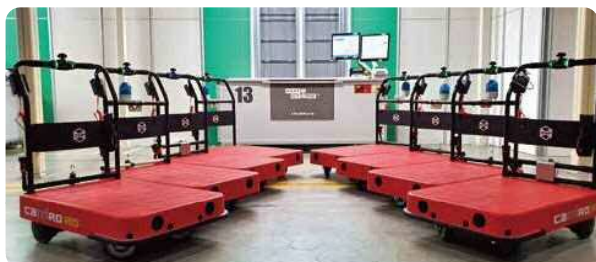
配送拠点の新設と新サービスの開始

コープ宅配システム「トドック」は、現在、全道179市町村の約38万人が利用しており、組合員さんの自宅に直接商品をお届けしています。利用者にとっては買物の負担軽減につながり、店舗の少ない地域にも安定して商品をお届けすることができます。

2019年度は、トドックの商品を遠方に住むご家族やご友人へ配送する「地方発送サービス」やスマートフォンからトドックの注文ができる「トドックアプリ」など、さまざまなサービスが開始されました。トドックアプリは、商品の検索や以前購入したものをリストから再購入できたりと、トドックの注文が簡単にできるようになりました。

オートストア導入による取り扱いアイテムの拡大

トドックの商品倉庫では、職員に代わってロボットが商品を入庫する自動倉庫型ピッキングシステム「オートストア」や、台車型物流支援ロボット「キャリロ」を導入して作業を自動化しています。省スペースでたくさんの商品の保管が可能となり、2019年



職員の腰につけたセンサーに反応して、カートが自動追走する物流支援ロボット「キャリロ」

また、配達効率の向上と地域密着型のセンター運営を目指し、石山センター、西岡センター、本別デポ、黒松内デポを新設しました。この結果、配達拠点が35センター、13デポとなり、計48拠点からの配達が可能になりました。今後もより多くの組合員さんにご利用いただけるよう取り組みを続けます。

成果を見る

宅配登録人数実績 延べ**378,413**人
(2020年3月20日時点) (前年比102.5%)



商品を届ける地域担当者



「トドックアプリ」は、商品名やキーワードを入力すると、SNSのメッセージのように商品を検索することができます

度は食品分類を8千アイテム増加、取り扱いアイテム数を合計で約2万2千アイテムまで拡大しております。また、ロボットシステムの導入は職員の省力化にもつながり、労働環境を向上し働き方改革の一助となっています。

今後もトドックの利用拡大が見込まれることから、後方支援の体制を整え、組合員さんに必要とされる品揃えを充実させていきます。



自動化された倉庫「オートストア」

SDGsの
目標



コープの目標 見守りの輪を拡大し全道に広げる

高齢者・独居世帯の「見守り」の取り組み

トドックの地域担当者は、毎週決まった曜日・時間に組合員さんのご自宅の玄関先まで訪問するため、高齢世帯の「見守り」の役割を担うことができます。それに伴い、訪問時に異常や異変を感じた際の緊急の連絡体制をスムーズにする「高齢者見守り協定」を全道174市町村（2020年3月現在）と締結しています。

ご高齢の方へのサポートを強化するために2015年に開始した「あんしんサポーター」の訪問活動は、2019年度から



成果を見る

高齢者見守り実績

トドック高齢者
注文サポート利用者数

888名

（あんしんサポーター対応 14名）

2019年度
高齢者見守り総件数

840件

（死亡13件、異変34件、無事793件）

見守り事例

宅配の配達のため組合員さんのご自宅を訪問したところ、チャイムを押してもノックをしても応答がありませんでした。郵便受けから呼びかけるとかすかに音が聞こえ、管理人さんに鍵を掛けてもらうと、倒れている組合員さんを発見しました。すぐに救急車を呼び、組合員さんは病院へ搬送されました。後日、無事退院された組合員さんより「ありがとう」と感謝の言葉をいただきました。

SDGsの
目標



コープの目標 地域住民のコミュニティスペースとして活用できる場所にする

トドックステーション

宅配センターと店舗にはコミュニティスペース「トドックステーション」を設置しています。小さなお子さんが楽しめるおもちゃを設置したり、子ども服、おもちゃ、絵本などを回収して、安価で販売する「トドックフリマ」などを実施し、親子で過ごせるスペースとなっています。

2019年度は、宅配センターでは室蘭、石山、西岡、店舗ではなかのしま店の4か所に新設し、全17か所となりました。新設された4か所は、利用者の「ドキドキワクワク感」や「驚きと遊び」「いつ来ても飽きない」ことを意識して作られ、なかのしま店は“室内ファーム”、西岡トドックステーションは“こどものまち”など、それぞれコンセプトを持った空間づくりを行いました。

また、北海道教育委員会と連携した「読み聞かせ会」もスター

トし、地域のコミュニティスペースとしての活用も推進しています。今後もさらに地域と密着したステーションづくりを目指します。



「室内公園」をコンセプトにした室蘭トドックステーション



「森のひみつきち」をコンセプトにした石山トドックステーション

成果を見る

2019年度トドックステーション実績

利用者数

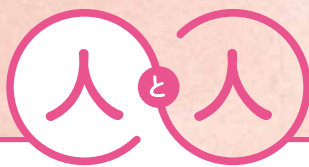
32,750名

（2020年3月20日時点）

トドックフリマ総売上

716,600円

（2020年3月20日時点）



SDGsの
目標



コープの目標 組合員さんが訪れたいくなるような、魅力的な店舗づくりをする

店舗での取り組み

新店舗オープンにより 地域の活性化を目指す

2019年7月12日にコープさっぽろ「しりうち店」(P7参照)、同年11月7日にコープさっぽろ「たいき店」がオープンしました。「たいき店」は、(株)大樹協同商事から事業を継承し、売場を一新させてオープンした店舗です。店内にはイトインスペースも併設され、コミュニティの場としてもご利用いただけます。

また10月18日「なかのしま店」、11月22日「しんことに店」をリニューアルオープンし、店舗面積を拡大しました。これからも地域の組合員さんの暮らしを支えるお店を目指していきます。

各サービスデーの 対象者を拡大

2019年6月27日から、毎週木曜日実施の「シニアコープデー」を「ゴーゴーコープデー」に変更し、対象年齢を60歳以上から「55歳以上」に引き下げ、サービスの対象者を拡大しました。

また、同年9月3日からは毎週火曜日実施の「ちびっこコープデー」の対象者を拡大し、障がいをお持ちのお子さんが20歳になるまでサービスが受けられるように変更しました。その結果、「ゴーゴーコープデー」及び「ちびっこコープデー」の登録人数の増加につながりました。

成果を見る

ゴーゴーコープデー登録人数実績
539,360人(2020年3月時点)
ちびっこコープデー登録人数実績
114,050人(2020年3月時点)



高級食パン 「KAKU SHOKU Hokkaido Biei」

高級食パン「KAKU SHOKU Hokkaido Biei」を開発し、「なかのしま店」・「しんことに店」で販売を開始しました。

もっちりとして口どけが良く、香ばしいこの食パンは、美瑛産の小麦や北海道産のビートグラニュー糖、天日塩を沖縄の海水で煮詰めたシママースなど材料を厳選しました。銀座の有名食パン専門店で作りを学んだ職人が、道民に喜ばれる味を追求し、オリジナルのレシピを開発しています。

焼きたてをお渡しできるように、両店舗で夕方まで数回に分けて焼き上げています。今後、職人を増やし設備を整え、販売可能店舗の拡大を目指します。



作り方が繊細なため、限られた職人が製造に当たります



手土産にもできる、特別感のある包装

組合員数180万人を達成

2020年1月14日に組合員数180万人を達成しました。2016年4月に160万人、2018年2月に170万人と年間5万人のペースで増加し、約4年間で20万人増加しました。コープさっぽろ創立55周年の記念すべき年に180万人を達成することができました。

北海道は高齢化や人口減少が早いペースで進んでいます。地域の食の環境を守ることを中心に、今後も引き続き北海道に貢献していきます。

ルーシー店(札幌市白石区)で行われた、組合員180万人達成記念セレモニー



ペットボトル 小型減容回収機を設置

海洋プラスチックごみ問題が世界的な課題になる中で、コープさっぽろは代表的なプラスチック容器であるペットボトルのリサイクル推進に取り組んでいます。2020年1月16日のルーシー店を皮切りに、札幌圏の10店舗にペットボトルの小型減容回収機

■導入店舗

札幌市	ルーシー店、しんこに店、あいの里店、藤野店、ソシア店、なかのしま店、星置店
石狩市	いしかり店
江別市	野幌店
北広島市	エルフィン店

を設置しました。店舗で圧縮して回収することで、運搬時の環境負荷低減にもつなげています。今後もリサイクルの輪を全道へと広げます。

店舗に設置された
ペットボトル小型減容回収機

500mlペットボトル(写真左)を
圧縮減容した後(同右)



SDGsの
目標



■コープの目標 自治体と協力を深め、買物不便地域に商品と買物する楽しみを届ける

移動販売車「おまかせ便カケル」

過疎化で商店などがない地域、高齢者の多い地域や高齢者施設などに移動販売車「おまかせ便カケル」を運行しています。2019年度は運行エリアを拡大したほか、行政機関との協力体制をより深め、地域の子どもの「お仕事体験」や、普段運行していない地域で1日のみ特別に営業をする「1日営業」なども行いました。

さらに、2019年3月19日には北広島市と「買い物不便者地域支援モデル事業」の連携協定を結びました。自治体と連携する

ことで、より多くの買物不便地域へ商品をお届けできるように取り組んでいきます。今後も地域のの方々の買物環境の維持を図るとともに地域活性化にも貢献できるよう「地域になくはならないカケル」を目指します。

成果を見る

おまかせ便カケル

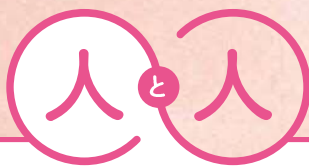
131市町村 **56店舗 93台**での運行
2018年度より **2店舗 2台**増加 (2020年3月20日時点)

■北広島市の運行状況

運行ルート	緑陽町(1~3丁目)、山手町(6~8丁目)、 里見町(1丁目、3~7丁目)、泉町(4丁目)、 高台町(1丁目、3~6丁目)
曜日	火曜日~土曜日
対象世帯数	5地区2,000世帯



えこりん村で行われた FIELDAYS in japan に参加しました



2019年度 **活動報告**

をつなぐ事業の輪

SDGsの
目標



コープの目標 地域と協力して、高齢でも認知症になっても安心して元気に暮らせるようにする

超高齢社会へ向けた取り組み

みんなで楽しく健康維持 「地域まるごと元気アッププログラム」

コープさっぽろは、NPO法人ソーシャルビジネス推進センター、北翔大学との協働のもと「地域まるごと元気アッププログラム」(通称「まる元」)で高齢の方を対象にコミュニケーション型運動教室を提供しています。「まる元」は毎週行われ、参加者の皆さまの健康と認知力の維持向上に役立っています。

また、ご高齢の方が一人でも安全に楽しく運動できるよう北翔大学が開発した「ゆる元体操」の普及にも取り組んでいます。「ゆる元体操」の指導者養成講習も実施しており、2019年度には認定を受けた方は100名を超え、中級の講座では12名の方が認定されました。



「ゆる元体操」の様子



中央文化教室での指導者養成講座の様子

成果を見る

まる元開催実績
23市町村
80クラス開催
登録者
1,450名

道内各地で開催 「認知症の理解と予防のキャラバン」

認知症について多くの方々にご理解いただき予防の取り組みを広めるため、2019年度から「認知症の理解と予防のキャラバン」を開始しました。NPOソーシャルビジネス推進センター相内理事長に認知症の理解と予防についてご講演いただき、「まる元」の健康運動指導士の指導のもと「脳トレ体操」を行いました。さらに、参加者の認知機能テストも行い、脳トレクイズと体操についての小冊子を配布しました。

このキャラバンは、普段、認知症についての講演を聞く機会が少ない地域を中心に開催しており、今年度はえりも町・中富良野町・岩内町・上富良野町で実施しました。3か年計画で各地開催を進め、より多くの方々に認知症について知る機会を提供していきます。



岩内町で行われた講演の様子



上富良野町での体操

顔の見える関係づくりを目指す 「ちょこっと茶屋」

店舗のイトインなどの空きスペースを活用し、地域の交流の場として元気の発信源となることを目指す「ちょこっと茶屋」を開催しています。行政機関や地域包括センター、社会福祉協議会、介護予防センター、町内会の福祉関係者などのご協力をいただき、2019年度は17店舗で開催しました。店舗により週1回～月1回のペースで、各種測定や介護予防体操、脳トレ、よろず相談などさまざまな内容で実施しています。

成果を見る

ちょこっと茶屋開催実績
13市町村17店舗(2,500人参加)



ハセオすみよし店(千歳市)で行われた、ちょこっと茶屋「音楽療法体験」の様子

自治体と連携した取り組みで地域の安心度をアップ

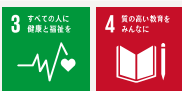
● 徘徊高齢者等SOSネットワーク事業の協力機関協定

2019年6月10日安平町と「徘徊高齢者等SOSネットワーク事業の協力機関協定」を締結しました。この事業は安平町が推進する取り組みで、行政機関、警察、地域住民、企業などが連携して地域全体の「見守り」ネットワークをつくり、徘徊などによる行方不明事案が発生した際に、情報を共有し、行方不明者の早期発見と保護につなげる事業です。そのネットワークにコープさっぽろも参画し、さらに「見守り」を強化していきます。

安平町との記念会見



SDGsの目標



コープの目標 若い世代から高齢の方まで、暮らしのお金について必要な情報を提供する

ライフプランアドバイザーの活動

コープさっぽろでは、暮らしのお金にまつわる疑問や不安について、ファイナンシャルプランナーの資格を持つ「ライフプランアドバイザー（LPA）」が情報提供を行っています。現在7名のライフプランアドバイザーが、保険診断や家計診断、講演会などさまざまな形で役立つ知識を伝えています。「おこづかいゲーム」を通じた子どもへの金銭教育や大学での新社会人向けセミナー、「奨学生通信（社会福祉基金発行）」での進学資金に関する連載など、若い世代への知識提供にも積極的に取り組んでいます。



2019年11月15日には家計の見直し相談センター代表の藤川太氏を招き「くらしの見直し講演会」を開催

● 運転免許証自主返納支援に関する協定

運転に不安を感じる高齢者が運転免許証を返納しやすい環境をつくるため、2019年7月26日江別市と「高齢者の運転免許証自主返納支援に関する協定」を締結しました。コープさっぽろ「えべつ店」「野幌店」にて、江別市に住民登録のある65歳以上の組合員さんで「運転経歴証明書」を提示した方を対象に、お買い物商品「無料配送サービス（全曜日対象）」を行います。

● 災害時における応急生活物資の供給等に関する協定

2019年6月18日えりも町と「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結しました。災害発生時に必要な物資の供給・配送を両者が協力して行い、住民生活の早期安定を図るというものです。コープさっぽろでは、これまで同協定を道内31市町村と締結しています。今後もさらに地域の皆さまの安全・安心に貢献していきます。

SDGsの目標



コープの目標 組合員さんに寄り添って、葬儀や終活などについて必要な知識を提供できる場所をつくる

コープの家族葬「フリエ」

コープさっぽろは、札幌市内の月寒と新琴似に葬儀ホール「フリエホール」を設け、その方にあったスタイルのお葬式を執り行っています。また、葬儀だけでなく「終活セミナー」や「相続個別相談会」などの開催や、葬儀やお墓、各種手続きの相談ができる機会を設けることで、多くの組合員さんに必要な情報をお届けしています。



終活セミナーの様子



フリエホールつぎさむ



2019年度 活動報告

人と食をつなぐ事業の輪

北海道の食文化がより豊かになるよう、人と食がつながる取り組みを行っています。安全・安心な食品を届けるだけでなく、食への興味・関心を持ってもらう機会をつくり、地域の活性化に貢献することも私たちの役割です。



コープの目標 さまざまな地域の人々へ食事のサポートを行い、食の楽しさを伝える

コープの配食クルリン

サービス開始から初のリニューアル

高齢者の在宅支援と安否確認を目的に2010年から始まったコープの配食事業「コープの配食クルリン」は、現在高齢者だけではなく、行政支援食や幼稚園など幅広いメニューを提供しています。

2019年6月3日販売開始分よりお弁当を一新し、従来の2

コースを見直して松・竹・梅の3コースをご用意しました。「松デラックス食」は、和洋中の3タイプから選べるバラエティ豊かなメニューになりました。「竹バランス食」は塩分・カロリー・食材の品目数など、栄養バランスを重視しています。「梅ライト食」は小食の方向けに量を控え、主菜は肉か肉を使わない豆腐や卵中心のメニューを選べるようになりました。

また、週に2回食パンや菓子パンのお届けを始めたほか、月1回の季節のデザート販売、サイドメニューもリニューアルし、より多彩な食事を楽しめるようになりました。



松デラックス食(洋食)



竹バランス食(魚)



梅ライト食(肉以外)

患者さんの状態に配慮した食事提供

2017年4月より始めた「病院・施設給食事業」は、患者さん一人ひとりの年齢や病気などに合わせて食事を提供しています。化学療法による食欲低下や嚥下障害などで食事がとれない方には、患者さんの状態に適した食事を提供し、早期回復・早期退院へつなげることを目指しています。

入院している患者さんや、施設利用者の方が楽しみにしている給食も、安全・安心のもと調理しています。季節ごとにお正月やクリスマス、敬老の日などに合わせた特別な食事もあり、施設では利用者の方の前で調理を行い、自宅のような雰囲気を楽しんでいただいています。



配食サービスで被災地をサポート

行政が住民の自立した生活を支援するために行う配食事業を「コープの配食クルリン」で受託しています。2019年4月1日販売開始分より新たに歌志内市、東神楽町、厚真町が加わり、計14市町となりました。厚真町は2018年の北海道胆振東部地震の影響で、配食事業を行う施設などが被害を受けました。配食の機能を持つコープさっぽろが、安否確認が必要な方や調理が難しい方への配食サービスを受託することは、地域を支えることにつながります。

災害だけでなく、製造や配達維持できない状況になった地域の行政から配食事業を受託していくことで、今後も持続的に暮らしていける地域づくりに貢献していきます。



食事を届ける様子

成果を見る

配食サービスの実績

配食サービス登録人数
7,620名

幼稚園給食取引園数
82園

配食サービス
31,500食

SDGsの
目標

3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



コープの目標 質にこだわった食品と明確な商品表示で、安全で安心な食品を届ける

安全・安心な食の提供

アニマルウェルフェアの活動

コープさっぽろは、アニマルウェルフェア（動物福祉）への取り組みとして、2017年9月から全店舗で平飼い卵を販売しています。平飼いとは、鶏を地面に放して飼う養鶏法のことです。ケージを積み上げて飼うケージ飼いに比べて鶏が自由に動き回ることができます。動物本来の行動欲求を満ち、ストレス軽減につながる飼育方法です。今後も安全で良質な畜産物を提供するため、活動の普及に努めていきます。

成果を見る

平飼い卵販売実績



シンプルで良質な商品を目指す 「なるほど商品」

コープさっぽろは、北海道で企画した「なるほど商品」を製造販売しています。2019年の新商品「米油であげて塩だけで味付けしたポテトチップス」は1週間で2万個、「道産生乳とてんさい糖だけの飲むヨーグルト」は発売3か月で10万本を販売しました。また、JAひがしかわ青年部による「ななつぼし」をバックご飯として製品化し、シンプルな良さを伝える商品として好評をいただいています。

6月には「なるほど六つの開発会議」というプライベートブランド商品の投票企画を行いました。最も票を得た「2本増量なるほどちくわ」を、創業祭に合わせて10月1日から数量限定で販売しました。これからもイベントと合わせて組合員さんの声に応える商品づくりを継続していきます。



ワインやブラックペッパーの 輸入販売を開始

コープさっぽろ関係会社のコープトレーディング（株）では、2019年度からワインの輸入に着手しました。コープイタリアのプライベートブランドであるワインをコープさっぽろ店舗で販売したところ、2か月かからず1万7000本を完売するほど大好評を得たため、継続して輸入販売を続けています。

また、ベトナムのサイゴンコープと協働し、ミル付岩塩・ブラックペッパーの開発をしたことで、南アフリカを経由して輸入したコショウを産地のベトナムから直接輸入できるようになりました。

これからも各国コープと連携し、現地での商談を行い、より良い輸入商品の開発・販売を目指します。



コープイタリアのワイン

「ゲノム編集学習会」を実施

2020年1月29日、帯広地区委員会では日本科学未来館事業部科学コミュニケーション専門主任の森田由子氏を講師に迎え、「知って、話して、考えてほしいゲノム編集技術の今とこれから」と題した学習会を開催しました。組合員さんから「ゲノム編集が不安」と寄せられた意見に応えたもので、遺伝子組み換えや突然変異との違いから、日本の規制や表示のこと、海外の規制・特許などについて、参加者87名にわかりやすく説明していただきました。





2019年度活動報告

をつなぐ事業の輪



コープの目標 子どもたちに食・くらし・環境について学ぶ機会を作り、生産者と消費者をつなぐ

食べる・たいせつフェスティバル2019

「食べる・たいせつフェスティバル」は、体験プログラムを通して食べることの大切さを学ぶ、コープさっぽろ最大の食育イベントです。道内の生産者やメーカー、行政、学校などの団体が出展し、クイズや料理などの参加型体験プログラムを提供します。参加者は子どもから大人まで、「食」はもちろん、「くらし」や「環境」についても学ぶ機会となります。また、生産者が消費者と交流し、北海道のおいしい食や地産地消の大切さを伝える場ともなっています。

2019年度は道内8つの地区で開催し、各会場さまざまなプログラムを実施しました。札幌会場では日本古来の伝統食品である漬物を使ったワークショップを行っています。参加者は漬物にひと手間アレンジを加え、調理によって変化する楽しさや保存食の役割、伝統食の歴史などを学ぶ機会になりました。



金印物産株式会社「『わさび』をすりおろしてみよう」



北海道放送株式会社 HBC 「あぐり王国北海道 NEXT プレゼンツ〜森アナウンサーと美味しい実験!漬物でフラーカップ寿司を作ろう!」

参加者からの声

- 食べる体験は楽しく、大人も勉強になりました
- 子どもたちが集中して楽しそうに体験しているところがよかった
- わかりやすい説明で子どもたちも関心を持って聞いていた

成果を見る

食べる・たいせつ
フェスティバル2019

来場者数
33,854人

出展数
586

支援者数
3,609名

地区別開催状況(来場者数、出展・支援者数)

開催日	地区	会場	来場者数	出展数	支援者数
8月24日(土)	札幌	スポーツ交流施設「つどいむ」	7,830	117	953
9月15日(日)	帯広	十勝農協連家畜共進会場アグリアリーナ	3,630	76	342
9月21日(土)	室蘭	日本工学院北海道専門学校	3,150	56	453
	北見	サンドーム北見&サンライフ北見	3,817	68	451
9月28日(土)	釧路	釧路市観光国際交流センター	3,410	57	306
	旭川	道北アークス大雪アリーナ	5,205	78	497
10月12日(土)	函館	函館市国際水産・海洋総合研究センター	1,860	70	347
	苫小牧	苫小牧市総合体育館	4,952	64	260
合計			33,854	586	3,609

SDGsの
目標



コープの目標 子どもたちの食の自立を育み、食品廃棄処分の削減を目指す

トドックフードバンク

食品ロスへの取り組みと 子どもたちの食育をつなげる

まだ食べられる商品でも、賞味期限が近い、規格外品というだけで廃棄処分されてしまう「食品ロス」の問題に取り組んでいます。「トドックフードバンク」は、返品アイテムなどの中で品質上問題のない食品を児童養護施設などに無償で提供するものです。

この取り組みの中で、児童養護施設の子どもたちに食育の機会をつくる「トドックフードキャラバン」の活動も行っています。子どもごはん研究家・能戸英里先生を講師に、フードバンクでつながりのある児童養護施設の子どもたちに料理作りを通して調理や食の楽しさを伝えています。

また、2019年度からは、食品ロスへの取り組みと食育をつなげた新たな企画として、さっぽろ青少年女性活動協会と連携し「おうちごはんをつくろう」を開始しました。米など使用する食材の一部に宅配の返品を利用し、子どもたちにおにぎりのみそ汁作りを通じて、だしのとり方など料理の基本を教えるものです。札幌市内の10か所の児童会館で実施しました。

成果を見る

トドックフードバンク実績

提供数

44施設

児童養護施設 23 ファミリーホーム 17 市町村 2
児童自立支援施設 1 公益財団法人 1

75,150,042円 205,586点

協賛企業からの提供

8団体 20,679,894円相当

トドックフードキャラバン

開催数 **10か所10回** 参加者 **125名**

おうちごはんをつくろう

開催数 **10か所10回** 参加者 **158名**



児童会館で行った「おうちごはんをつくろう」



家庭からも食品ロスを考える 「食品ロスセミナー」

取り組みを始めて3年目になる「食品ロスセミナー」は、釧路会場を加え道内5か所で開催されました。『3切る(使い切る・食べ切る・水切る)』で「もったいない」を減らす方法として、家庭のできる取り組みを伝えました。料理研究家の東海林明子先生が教える「使い切りクッキング教室」では、食材を無駄なく使い切るコツや、洗い物を増やさない調理の流れなどを実践しながら調理を行いました。

■食品ロスセミナー

開催日	会場	人数
2019年9月27日(金)	札幌会場(札幌エルプラザ)	29
2019年10月11日(金)	帯広会場(コープさっぽろ ヘルデ店)	30
2019年11月1日(金)	旭川会場(コープさっぽろ シーナ店)	19
2019年11月15日(金)	函館会場(コープさっぽろ いしかわ店)	20
2019年11月22日(金)	釧路会場(釧路市生涯学習センター)	24
合計		122

東海林明子先生と参加者





SDGsの
目標



コープの目標 食や食育に関わる企業・団体をつなぎ、情報を交わす場を提供する

食育研究会

コープさっぽろは、食育プログラムのさらなる充実を目指して、取引先のメーカー・企業の皆さんと「食育研究会」を実施しています。食育や食の最前線で活躍する講師を招き、北海道の食を豊かにするための情報共有の場となっています。

2020年2月10日には第25回を迎え、宿泊施設「里山十帖」（新潟県）のクリエイティブ・ディレクターとして空間から食まで手掛

けた株式会社自遊人の岩佐十良氏を講師に開催しました。「ローカル・ガストロノミー～食が地方を変える!」をテーマに講演いただき、食に携わる人々は未来に向けてどうあるべきかを考える機会となりました。



岩佐氏の講演は、最新の食を取り巻く環境に触れる機会となりました

■2019年度食育研究会

開催日	回数	内容	人数
2019年6月21日	第22回	テーマ：「～食は国なり!魚と日本の食卓をつなぎなおす～」株式会社ウエカツ水産代表 上田勝彦氏	約180
2019年10月10日	第23回	テーマ：「食生活と腸内細菌」中村学園大学薬膳科学研究所 所長・教授 徳井孝孝氏 テーマ：「日本型薬膳と食育」同大学栄養科学部 学部長・教授 三成由美氏	約180
2019年11月29日	第24回	テーマ：「挑む農業出版記念講演」ニセコ高橋牧場 店長 高井裕子氏 白糠酪恵舎 代表取締役 井ノ口和良氏	約180
2020年2月10日	第25回	テーマ：「ローカル・ガストロノミー～食が地方を変える」株式会社自遊人 代表取締役 岩佐十良氏	約180

SDGsの
目標



コープの目標 「北海道のおいしい食文化の創造」を目指し、地産地消・産地交流を進める

畑でレストラン

コープさっぽろと有名シェフ、生産者がタッグを組み、生産地で採れたての食材を使って1日限りのレストランを開く「畑でレストラン」は、北海道の食文化を豊かな自然とともに楽しめる人気のグリーンツーリズム企画です。コープさっぽろ農業賞受賞者の生産地で開催し、生産者と消費者をより身近に結び、地産地消の大切さを伝える場でもあります。

2019年度は焼く・煮るなどの工程が同時にできるスチームコンベクションを搭載した新キッチンカーが登場し、調理の幅が広がりました。また、開催地の市町村長にも参加していただき、地域の特性や魅力などを紹介していただきました。今後はより地域に貢献できる存在になるように、組合員さんとともに生産者と消費者をつなげる活動をしていきます。

成果を見る

畑でレストラン開催実績

参加者数合計 **1,312名**

第1弾 (6月9日～8月4日) **10回開催 590名**

第2弾 (8月10日～9月29日) **10回開催 544名**

スピンオフ企画 **3回開催 178名**



リニューアルしたキッチンカー





コープの目標 若い世代へ和食文化を継承し、魚や魚食への関心を持たせる

魚の調理教室

コープさっぽろは、2014年から札幌市中央卸売市場と協力し「魚の調理教室」を開催しています。魚のさばき方や調理技術を伝え、食文化の継承と魚の消費拡大につなげることを目的としています。

2019年度からは、魚だけでなく野菜の調理方法も同時に教える「魚と野菜の調理教室」を始めています。また、男性向け企画として始めたくじら専門の講師から料理を学ぶ「くじらの調理教室」は、ご要望の声にお応えし、2019年度から女性の参加も可能となりました。参加者のレベルや興味に合わせられるよう、教室のバリエーションを増やしています。



教室の様子

成果を見る

魚の調理教室開催実績

全地区合計	46回	642名
うち親子教室	2回開催	45名
旬の調理教室	6回開催	82名



コープの目標 生産者と消費者のつながりを、産地での交流以降も継続させる

農業賞交流会

北海道で活躍する生産者を消費者目線で評価し表彰する「コープさっぽろ農業賞」を2004年から開催しています。現在は3年に1度表彰し、他2年は過去受賞者や審査委員、組合員さんの交流会「農業賞交流会(旧名称:つどい)」が行われています。

2019年は11月29日に開催され、受賞生産者や組合員の代表、農業賞の審査委員など、合計208名の参加がありました。受賞生産者の取り組みの報告を聞きながら、受賞生産者提供による農水産物を使った料理を囲んで生産者と組合員さんが交流を深めました。



料理を囲みながら、交流を深めました



コープの目標 子どもに料理への関心を持たせ、楽しさや食文化を継承する

こどもレストラン料理教室

広報誌「ちょこっと」で人気の「こどもレストラン」が、実際の料理教室として2018年6月よりスタートしています。講師は子どもごはん研究家・能戸英里先生で、月1回程度の開催です。参加できるのは小学生のみで、保護者の見学や手伝いはありません。各テーブルにスタッフが付きますが、大人の手をほとんど借りずに主菜・副菜・デザートで構成された昼食を作ります。

季節に合わせたメニューを作ったり、夏休み・冬休み期間に店舗での買い物体験を加えたりしながら、小学生に料理の楽しさを伝えています。

成果を見る

こどもレストラン開催実績

2018年度 開催回数	10回
参加人数 合計	116名
2019年度 開催回数	15回
参加人数 合計	160名





2019年度 活動報告

をつなぐ事業の輪

コープさっぽろは、住み続けられるまちづくりのため、次世代を担う子どもたちの健やかで心豊かな成長のために、育児、雇用、限りある環境資源などの社会課題に取り組んでいます。

SDGsの目標



コープの目標

絵本を通して「親子のふれあい」や「大切にしたい価値観の継承」のきっかけを作る

えほんがトドック

1～2歳の子どもがいる組合員世帯を対象に絵本を無償で届ける「えほんがトドック」は、子育て支援の一環として2010年にスタートした活動です。2020年には10年目となり、これまで30タイトルの絵本をお届けしました。

2012年から続く「えほんわくわくキャラバン」は、保育園や幼稚園などへ訪問し絵本の読み聞かせを通して、子どもたちの豊かな心を育むための活動です。2019年は北海道労働金庫、全労済との協同企画を開催、クリスマスには広尾町とも協同し、児童養護施設への特別訪問も実施しました。また、赤ちゃんから参加できるファミリーライブでは、創作遊び作家・たにぞうさんのライブを中心に、ダンスやトドックとの記念撮影などを行いました。

妊婦さんとその家族が対象のマタニティライブでは、お笑い芸人・テゾandトモさんがコープさっぽろをテーマにしたネタを披露し、会場の笑いを誘いました。



コープ子育て支援基金



成果を見る

えほんがトドック実績	2019年度登録者数	9,237名
	延べ登録世帯	80,183世帯
	延べ配布冊数	384,156冊

えほんわくわくキャラバン開催実績	延べ訪問施設数	231施設	延べ参加園児数	19,864名
------------------	---------	-------	---------	---------

えほんでわくわくファミリーライブ開催実績	2019年度開催地	旭川・函館
	2019年度参加人数	大人 234名 子ども 203名

マタニティライブ開催実績	2019年度開催地	帯広・釧路
	2019年度参加人数	大人 414名 子ども 117名

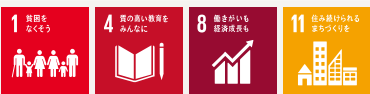
成果を見る

制度を利用したアルバイト採用人数	コープさっぽろ大学生返済支援制度利用者
2019年度 365名 (2020年3月時点)	新入職員 27名

公益財団法人コープさっぽろ社会福祉基金

コープさっぽろ社会福祉基金は、1989年に発足した公益財団法人市民生協社会福祉基金が始まりです。奨学金事業では、ひとり親家庭・障がいのある高校生へ返済不要の奨学金を給付しています。2019年は196名の生徒に総額2,298万円を給付しました。

SDGsの目標



コープの目標

奨学金の返済に苦しむ学生や新入職員をサポートし、優秀な人材を育成する

奨学金への取り組み

学費の高騰や収入の減少で奨学金を借りている大学生は二人に一人といわれていますが、非正規雇用や低賃金労働の拡大によって返済に苦しむ人が増え、奨学金問題は深刻化しています。

コープさっぽろは、家庭の経済的事情から進学を断念する子どもたちが一人でも多く進学できるよう、学資金支援の一助として返済不要の「コープさっぽろ大学生育英奨学金」制度を2017年に創設しました。コープさっぽろで働く大学生には最長4年間で合計100万円給付を受けることができます。

SDGsの
目標



コープの目標 初めて出産する方の不安や負担を少しでも軽くする

ファーストチャイルドボックス・コープチャイルドボックス

2018年4月から始まった「ファーストチャイルドボックス」は、北海道在住で第1子を出産予定の組合員さんを対象に、ベビーケアアイテムやベビー服などの子育てに欠かせないアイテムを無償で贈る取り組みです。子育て支援で先進的なフィンランドの「母親手当」を参考にしています。2019年9月時点で、北海道で生まれた第1子の67%にあたる約10,000人の妊婦さんにファーストチャイルドボックスをお届けしました。

コープさっぽろはこの取り組みを拡大し、第2子以降を出産予定の組合員さんを対象とした「コープチャイルドボックス」を2019年10月1日に開始。これまでに合計15,000人の妊婦さんへお届けしています。今後も育児をがんばる親や、その子どもへの支援を展開していきます。



お申込み1万人達成記念贈呈式

ファーストチャイルドボックスの申込総数が10,000人を達成した記念として、1万人目にあたる組合員さんへの記念贈呈式を2019年9月27日に開催しました。組合員さんとコープさっぽろの専務理事が登場し、ファーストチャイルドボックスを直接手渡ししました。



成果を見る

2019年度 ファーストチャイルド ボックス総申込数	ファーストチャイルドボックス 6,760名 コープチャイルドボックス 3,026名 合計 9,786名 (2020年3月20日時点)
----------------------------------	--

利用者の声

- 豪華な中身に驚きました!届いた直後、写真を撮ってママ友にファーストチャイルドボックスのことを教えました。
- 男の子も女の子も使えるデザインがうれしいです!次の子どもが生まれたときにも使えそうです。
- 必要なアイテムをあれこれ揃える手間が省けました。全国でもこのような取り組みが広がってほしいです。

SDGsの
目標



コープの目標 食べることの大切さや働くよさを学ぶ

おしごとキッズ

小学生が対象の職業体験イベント「おしごとキッズ」を夏休みと冬休みに開催しています。職員と同じ制服を着た子どもたちが、店舗の売り場やバックヤードで本物の商品や道具を扱い、パッケージングやレジ打ちなどを体験します。2019年度は道内の51店舗で開催。各地区4会場を目標に募集を行った結果、参加人数は前年を大きく上回りました。新たな試みとして、一部の会場では学生ボランティア・ezorock(エゾロック)とともにイベントの環境づくりを行いました。

保護者からはアンケートで、「お弁当をバランスよく作ることの大変さを感じたようです」「仕事の大変さを学べたようです。将来は『コープの店員さんになりたい』と言っていました」などのコメントをいただきました。今後も内容を進化させ、食に関する知識や働くことの喜びを体験してもらえるよう活動を進めていきます。



成果を見る

2019年度開催店舗数	2019年度参加人数
おしごとキッズ実績 51店舗 (前年度+13)	759名 (前年度+186)



SDGsの
目標



コープの目標 多様な人々が地域で長く安定的に働くための場づくり

雇用への取り組み

2020年度から 秋の新卒採用を開始

少子高齢化や人手不足で新卒者の獲得競争が激化する中、コープさっぽろは、全国主要生協において初の試みとなる「新卒採用春・秋年2回採用」の開始を決め、2019年10月28日に発表しました。採用の間口を広げ、留学帰国者、外国人留学生、大学院生など多様な人材の確保を目指しています。

初回の秋採用は2020年2月から募集を開始し、約20名の採用を予定しています。国内外から優秀な人材を多く集め、食や生活の面で北海道を支えるインフラとしての機能の充実を図ります。

障がい者雇用事業を拡大

性別、年齢、学歴、国籍などの多様性を受容し、幅広い人材を活用して生産性を高めるダイバーシティの取り組みを進めています。中でも注力しているのが障がい者雇いで、2020年3月時点の障がい者雇用率は子会社及び関連会社を含むグループ全体で5.1%となっています。

また、2019年12月には「就労継続支援A型事業所」の2020年4月1日の開設を発表しました。グループ全体の業務の切り出しを進め、地域で働く意思のある障がい者を一般就労へつなげる訓練・育成の場をつくること、障がい者が定年まで働ける環境を構築することが目的です。当面はグループ内の工場で作業系業務の施設外就労を行います。将来的には精神・発達障がい者の就労環境整備を目的に事務系業務の施設外就労も視野に入れています。各地域の障がい者が、その能力を發揮し共に働くことのできる職場づくりを今後も推進していきます。

成果を見る

障がい者雇用実績

2018年度 5.0% (426名) ▶ 2019年度 5.1% (482名)

外国人技能実習生の受入れ

開発途上国などの経済発展を担う「人づくり」に貢献するため、中国とベトナムから外国人技能実習生を受入れています。2013年から開始した取り組みで、2019年度は192名の実習生を受入れました。実習生は石狩・江別にある食品工場でルールから衛生管理までをしっかりと学び、各工場で実務にあたります。

2019年度からは、3年間の技能実習を終えた2号生が3号生としてさらに2年間実習ができる再受入れを開始しています。

成果を見る

2019年度外国人技能実習生の受入れ実績

石狩工場	111名	生鮮センター	31名
江別工場	29名	店舗	21名

ベトナムのサイゴンコープと交流

コープさっぽろは、ベトナム国内最大の小売店サイゴンコープと2016年12月に連携協定を結びました。協定の相互交流の一環として2018年より研修生を受入れており、2019年6月22日～7月5日に10名の幹部職員が来道しました。大見理事長の講義、店舗実習や宅配の同乗研修、工場視察などを行い、JAひがしかわとの交流も実施しました。



自治体などの協力のもと、日本文化に触れられるイベントも実施





コープの目標 環境にやさしいエネルギーを生み出し、環境問題に貢献する

再生可能エネルギーへの取り組み

トドック電力

2016年にスタートした電力事業「トドック電力」は、全国の生協で唯一、100%再生可能エネルギーで組合員さんへ電力を供給しています。2019年度はコープさっぽろグループの配食工場6か所に非常用発電機を配備したほか、コープフーズ石狩工場の常時発電や、緊急時対策としてコージェネレーション発電機を含めたオンサイト発電事業も展開しています。さらに、お取引先様の工場にオンサイト発電事業推進活動を行い、北海道のBCP(事業継続計画)に貢献します。



エネコープ

総合エネルギー会社「エネコープ」は2019年度に、道内106店舗、宅配45拠点にポータブル非常用発電機を配備しました。また灯油の油槽所にも非常用発電機を設置したことで、停電時でも組合員さんへの灯油の配送が可能になりました。

七飯町に施設を持つバイオガスプラント事業は「令和元年度新エネ大賞」の新エネルギー財団会長賞を受賞しました。低圧発電事業の取り組みや、地域での資源循環サイクルの構築などを高く評価いただいています。2019年度の施設見学者数は181名(前年360%増)と飛躍的に伸び、注目度の高まりを実感しています。



太陽光発電余剰電力買取サービス(卒FIT※1)を開始

固定価格買取制度※2の買取期間が満了する住宅用太陽光発電設備をお持ちの組合員世帯(卒FIT世帯)を対象に余剰電力買取サービスを開始しました。「コープの灯油」「コープのガス」を利用している場合は、さらに高値で買取を行っています。

※1 太陽光発電による余剰電力を高値のFIT価格で売電できる期間が満了すること
※2 太陽光発電でつくられた電気のうち、余った電気を電力会社が固定価格で買い取る制度

RE100アクションミーティングに参加

2019年6月3日に東京都庁で開催された「RE100アクションミーティング」に参加しました。これは東京都が再エネ電力100%の普及・活用に取り組む電力事業者とともに再エネ電力の利用・供給の拡大を目指すもので、参加企業の活動紹介から、優れた先行事例やビジョンの共有につながっています。



コープの目標 リサイクル施設や体験イベントを通して、地域の方々や子どもたちにエコの大切さを伝える

エコセンターの取り組み

「エコセンター」は、コープさっぽろの事業所や組合員家庭から出る資源を回収し、減容などの中間処理を行いリサイクルにつなげる施設です(2019年度回収実績はP28参照)。環境活動の発信拠点ともなっており、敷地内の「トドックエコステーション」には、2019年6月22日に体験型教育施設「あすもり資料室」(P27参照)と「エコステの森」がオープンしました。また、「えべつ環境広

場2019」へ出展し114名のお子さんの参加があったほか、7月・11月に施設で体験イベントを開催しました(116家族371名が参加)。

成果を見る

2019年度エコセンター・
エコステーション見学者数
2,549名(前年度+750)
※2020年3月20日時点



エコステーション



SDGsの
目標



コープの目標 自然災害による被災者・被災地への支援

台風被害への緊急支援募金

2019年9月に千葉県に上陸した観測史上最強クラスの台風15号は、家屋や電柱、送電塔などを破壊し大規模停電を引き起こしました。また、10月には台風19号が関東・東北地方に上陸、記録的豪雨が河川の氾濫などを引き起こし死者90名を超える甚大な被害をもたらしました。コープさっぽろでは「台風15号千葉県災害緊急支援募金」「台風19号被害緊急支援募金」を実施

し、多くの組合員さんに協力いただきました。台風15号千葉県災害緊急支援募金は日本赤十字社を、台風19号被害緊急支援募金は日本生活協同組合連合会を通じ、義援金として被災者へ届けられたほか、後者は被災地の支援金としても活用されました。



成果を見る

台風15号
千葉県災害緊急支援募金
募金総額
10,725,065円

台風19号
被害緊急支援募金
募金総額
21,397,553円

SDGsの
目標



コープの目標 ユニセフ指定募金活動を通して、助け合いの心を海外にも向ける

ユニセフ指定募金「インドネシア・パプア地域識字率向上プロジェクト」をスタート

2010年から3期9年にわたって取り組んだユニセフ指定募金※「ブータン『水と衛生プロジェクト』」が終了し、2019年4月から「インドネシア・パプア地域識字率向上プロジェクト」がスタートしました。パプア地域では、都市部以外に住む先住民の子どもの約半数は学校に通ったことがなく、小学校低学年の62%は簡単な読み書きができないという課題を抱えており、本プロジェクトは

その改善を目指すものです。

開始にあたり、2019年4月7日～13日にかけて組合

員さんの代表が事前視察を実施。帰国後に報告会を開いて活動を広めました。2019年度は総額11,647,800円を送金。今後もパプア地域の子どもたちへ支援を続けます。

※指定募金…募金の用途をわかりやすくするために、国と使用用途を特定する募金。



SDGsの
目標



コープの目標 戦争・被爆体験と平和への思いを次世代へ継承

平和スタディツアー

全道各地から選ばれた中学生・高校生が、「子ども平和大使」として被爆地を訪問し、平和について学ぶ機会を作っています。2019年は広島に19名、長崎に9名の合わせて28名の学生が平和スタディツアーに参加しました。その内、21名は学校からの推薦をいただいたの参加です。戦争・被爆体験を次世代に引き

継ぐ活動として、日本生協連のピースアクションや、原爆慰霊祭に参加し、悲惨な戦争被害や核兵器の恐ろしさを学びました。学校推薦を受けて参加した21名中16名は、全校集会や学年集会などで「学校報告会」を行い、延べ3,200人を超える生徒たちの前で、ツアーに参加して感じた平和への思いを発表しました。

また、平和スタディツアーに参加した高校生1名と組合員理事1名が、2020年4月にニューヨークの国連本部で行われるNPT（核不拡散条約）再検討会議に参加する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、会議が延期となり残念ながら参加を見送りました。



2019
年度

環境活動報告

コープさっぽろは2008年の洞爺湖サミットを機に、環境活動を一層推し進めています。組合員さんと共に活動を進め、事業活動の中でも環境保全を進めていきます。

TOPICS2019

SDGsの
目標



Topic 1

あした コープ未来の森プロジェクト

店舗でレジ袋を辞退された分を積立て、森づくりに活用する「コープ未来の森づくり基金(あすもり)」を2008年に設立し、現在までに257,735,563円が積立てられました。この基金のもと、組合員さんが参加して全道各地で植樹を進めています。2019年度は植樹本数が10万本を達成したため、「コープの森」で記念植樹を行いました。

また、森づくりに関わる取り組みでは、エコセンター(P25参照)の敷地内に、森の情報発信基地として「トドックエコステーションあすもり資料室」を2019年6月22日に

オープンしました。北海道の森づくりに関わるさまざまな書籍や屋内展示によって、森づくりの知識を伝え未来につないでいきます。



Topic 2

ホッキョクグマ応援プロジェクト

トドックのイメージキャラクターにちなんで、絶滅危惧種のホッキョクグマを通じて環境意識を高める「ホッキョクグマ応援プロジェクト」を道内4動物園との協働で進めています。各動物園へ協賛金を贈るほか、2017年からは環境プログラム推進事業「トドック探検隊」を実施しており、4園で累計参加者数22,344人を達成しています。

トドック探検隊の取り組みの一環として「真冬のZOOキャンプ」を毎年開催しています。今年度は札幌市円山動物園との共催で、2020年1月18日・19日に実施し、札幌市内の8組18名の親子が参加しました。北極冒険家の萩田泰永氏を講師に招き、北極探検のお話を聞くほか、当時の冒険にちなみ、GPSを用いた宝

探しや極寒の中のテントで寝袋を体験するなど、参加親子の好評を得ました。

2019年度ホッキョクグマ応援プロジェクト協賛金

動物園(協定締結年月日)	贈呈式日時	2019年度協賛金額
札幌市円山動物園('09年4月27日)	2019年5月19日	300万円
おびひろ動物園('10年8月10日)	2019年5月24日	200万円
釧路市動物園('11年11月23日)	2019年6月13日	200万円
旭川市旭山動物園('13年4月27日)	2019年5月23日	200万円



「真冬のZOOキャンプ」では、夜間や早朝など普段入れない時間の動物園の散策も行いました

利用者の声

- 極寒チャレンジでオオカミやアザラシたちのたくましさを感じました。(小学6年生)
- ほんとうの宝探してみたいにGPSを使って宝を探すのが楽しかった。(小学4年生)
- 屋外テント泊は寒かったが、防災を考えると我が家に足りないものを考えるヒントになった。(保護者)
- 子どもが楽しそうな時に見える、キラキラした表情が多かったです。(保護者)

環境
理念

コープさっぽろは、組合員さんへの「7つのお約束」を基本にして、組合員さん、役職員が共に手を携えて「くらしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉・助け合いにあふれた地域づくりを積極的に推進していきます。コープさっぽろは、これらの活動が北海道全域に根ざし、北海道民全体が未来に向けて希望に満ちて生きることができるよう、持続可能な環境保全型の社会づくりをめざします。

環境
方針

コープさっぽろは、店舗・宅配システムドック・共済などの事業を通じ組合員さんに安心してご利用いただける安全な商品・サービスを提供し、北海道全体の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりに寄与していきます。

- ① 事業における汚染の予防に取り組むとともに、より少ない環境負荷でより大きな価値を生み出せる業務執行を実践します。そのため、中期・短期の環境目的・目標を掲げ、定期的に見直しを進めながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- ② 環境保全にかかわる法令・条例、並びに協定等受け入れを決めた要求事項を順守します。
- ③ この方針を全役職員に周知徹底し、マネジメントシステムの適用範囲内で一人ひとりが自らの果たすべき役割を自覚して行動します。
- ④ この環境方針を広く公開するとともに、環境活動の全ての取り組みについて定期的に公表します。

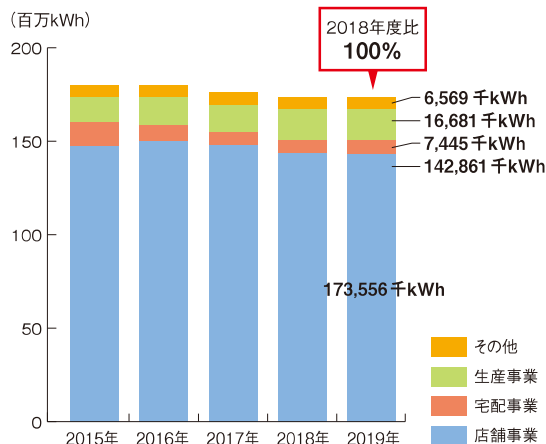
- 電力・燃料等のエネルギー資源を効率的に使用し、地球温暖化防止に寄与します。
- 廃棄物の発生抑制と削減に取り組みます。
- 環境に配慮した事務用品の使用に努めます。
- 環境に配慮した商品の開発と普及に取り組みます。
- 業務の中で環境への配慮が積極的に行われる風土づくりに取り組みます。
- 組合員さんの声に学ぶとともに、地域に対して、環境問題の啓発を進めます。
- 環境保全型の地域社会づくりに取り組みます。

環境データ報告書

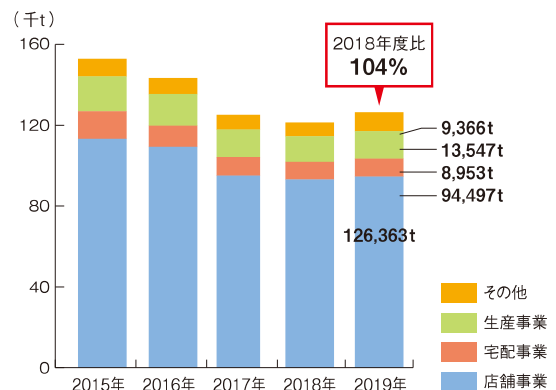
温室効果ガス、主にCO₂排出量の削減は、地球温暖化防止のため、事業体すべての大きな課題です。コープさっぽろは省エネルギーと、再生可能エネルギーの積極的な利用に取り組んでいます。

電気使用量 

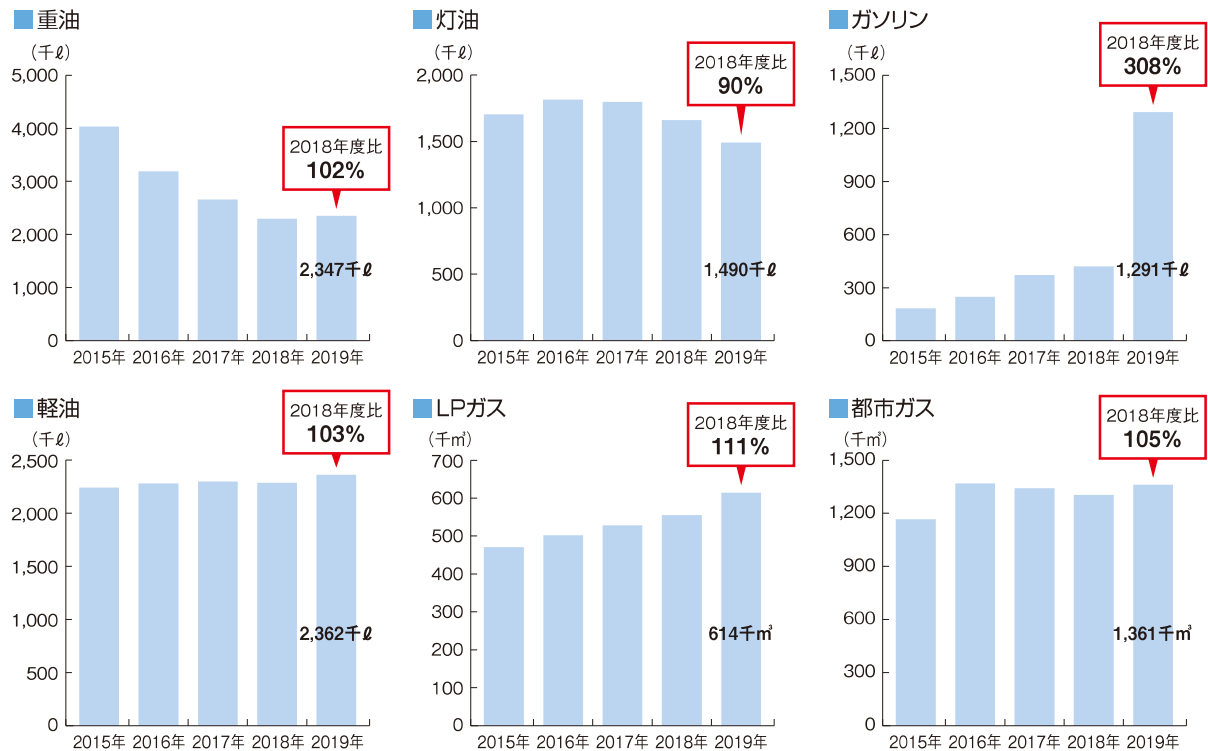
運用面での管理を徹底することで、電気使用量を削減しています。

CO₂ 排出量 

電気使用量の削減とCO₂排出係数の低い電力を選択的に購入することで、エネルギー使用によるCO₂排出量を削減しています。



エネルギー使用量（電気以外） 環境負荷の少ないエネルギー源へと使用を順次切り替えています。



コープさっぽろの資源回収

コープさっぽろは、店舗や事業所から出る資源物のほか、宅配トドックの戻り便を利用して、組合員さんの家庭から出る資源物も回収しています。回収量は毎年増加しており、2019年度は35,167tの資源物を回収しました。これは20,997tのCO₂削減に相当します。

エコセンター回収量

(単位:t)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2018年比
ダンボール	16,991	17,602	17,598	17,178	16,799	98%
紙パック	280	283	276	272	273	99%
週刊トドック	9,948	11,041	12,085	13,788	14,735	114%
新聞紙	983	1,000	954	906	893	95%
発泡	411	388	375	374	346	100%
ペットボトル	61	66	47	32	34	68%
スチール缶	18	24	16	14	12	88%
アルミ缶	46	58	68	62	55	91%
PPバンド	42	44	43	33	32	77%
内袋	117	116	116	123	123	106%
廃食油	807	849	861	873	895	101%
古着古布	671	728	747	838	970	112%
合計	30,375	32,199	33,186	34,493	35,167	104%

古着回収の売上げを北海道ユニセフ協会に募金

2014年3月より、宅配トドックの資源回収で古着回収を行っています。回収した古着はカンボジアでのリユースや、工業用ぞうきんにリサイクルされています。2019年度もこの古着販売による売上金のうち、150万円を北海道ユニセフ協会に募金しました。



コープさっぽろの組織概要

基本情報

名称	生活協同組合コープさっぽろ (生活協同組合市民生協コープさっぽろを2000年に名称変更)
創立年月日	1965年(昭和40年) 7月18日
創業年月日	1965年(昭和40年) 10月1日
本部	札幌市西区発寒11条5丁目10番1号
役員(常勤)	<ul style="list-style-type: none"> ●理事長 大見 英明 ●専務理事 中島 則裕 ●専務理事 岩藤 正和 ●常務理事 米内 徹 (2020年3月現在)
活動エリア	北海道全域(定款)
組合員数	1,811,207名(2020年3月20日) (北海道の世帯数 2,781,336世帯)(2019年1月末) 組合員組織率 65.1% (札幌市57.7%、旭川市77.5%、函館市77.0%、石狩市83.9%など)
出資金	77,599,550千円(2020年3月20日)
事業高	2,806億9,869万円(合計)(2019年3月21日~2020年3月20日) 1,833億8,510万円(店舗事業) 890億9,029万円(宅配事業) 19億3,502万円(共済事業) 62億8,828万円(その他)
従業者数	正規職員 2,351人 専任職員 2,211人 パート・アルバイト 10,673人 ※従業員数は子会社含む数値(2020年3月20日現在)

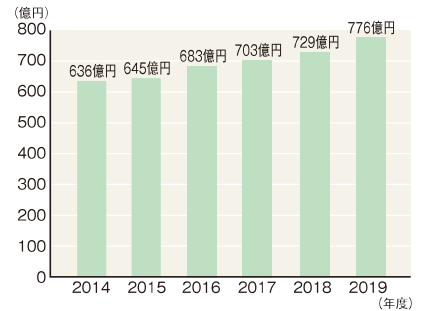
資料 出資金の状況

年度別出資金動態

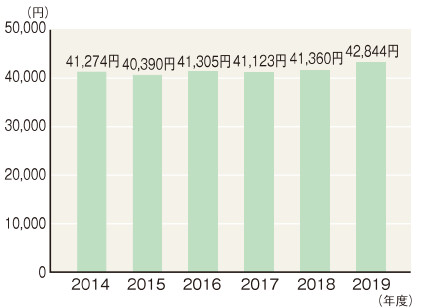
項目 年度	金額 (千円)	前年比 増加額 (千円)	増加率(%)	
			前年比	2014 年度比
2014	63,697,955	780,400	101	100.0
2015	64,466,901	768,946	101	102.2
2016	68,344,865	3,877,964	106	107.3
2017	70,278,859	1,933,994	103	110.3
2018	72,903,778	2,624,919	103.7	114.3
2019	77,599,550	4,695,772	106.4	121.8

※上記出資金額には千円未満の預り金も含めて表示しています。
定款上の出資金(1口千円単位)は77,156,979千円です。

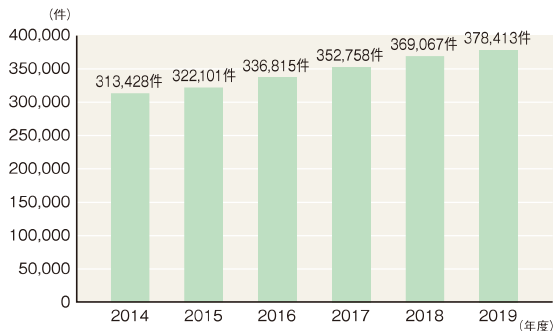
年度別出資金残高



1人当たりの平均出資金

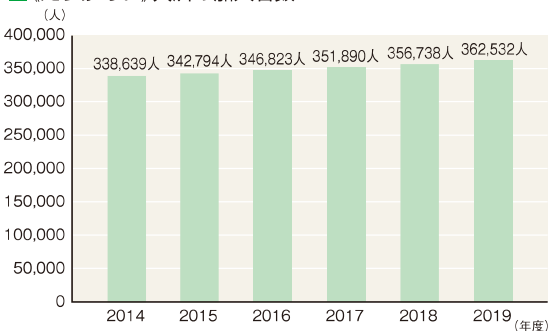


資料 宅配(トドック)の参加状況



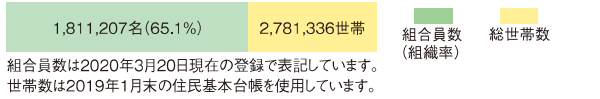
資料 CO-OP共済の状況

《たすけあい》共済の加入者数

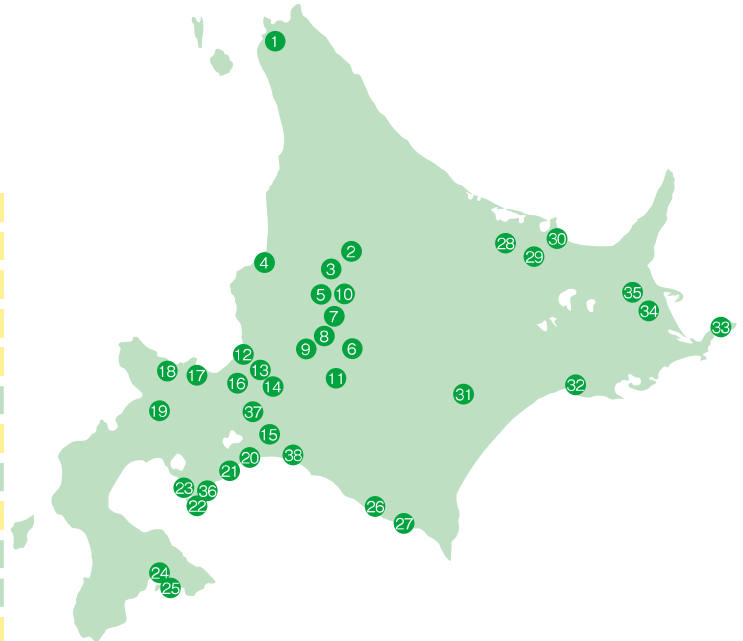


組合員動態

都市別組合員組織率



順位	市町村	組合員数 (組織率)	総世帯数
1	稚内市	5,348名 (29.9%)	17,885世帯
2	旭川市	137,843名 (77.5%)	177,764世帯
3	深川市	10,665名 (98.0%)	10,886世帯
4	留萌市	11,354名 (97.7%)	11,623世帯
5	滝川市	14,913名 (69.4%)	21,502世帯
6	富良野市	11,099名 (101.9%)	10,896世帯
7	砂川市	7,885名 (88.3%)	8,928世帯
8	美唄市	12,309名 (106.1%)	11,605世帯
9	岩見沢市	34,543名 (82.7%)	41,767世帯
10	赤平市	6,017名 (102.3%)	5,882世帯
11	夕張市	4,974名 (104.6%)	4,755世帯
12	石狩市	23,127名 (83.9%)	27,580世帯
13	江別市	38,953名 (68.1%)	57,219世帯
14	北広島市	23,865名 (86.7%)	27,537世帯
15	千歳市	23,762名 (48.3%)	49,196世帯
16	札幌市	610,323名 (57.7%)	1,058,431世帯
17	小樽市	53,248名 (83.6%)	63,709世帯
18	余市町	9,092名 (91.6%)	9,927世帯
19	倶知安町	7,927名 (84.3%)	9,400世帯
20	苫小牧市	66,405名 (75.0%)	88,545世帯
21	白老町	9,100名 (96.0%)	9,484世帯
22	室蘭市	26,642名 (58.0%)	45,903世帯
23	伊達市	9,151名 (51.1%)	17,924世帯
24	北斗市	15,858名 (71.3%)	22,256世帯
25	函館市	109,806名 (77.0%)	142,571世帯
26	新ひだか町	9,117名 (77.5%)	11,765世帯
27	浦河町	8,361名 (123.8%)	6,755世帯
28	遠軽町	11,063名 (107.3%)	10,310世帯
29	北見市	43,357名 (70.3%)	61,638世帯
30	網走市	15,317名 (84.0%)	18,243世帯
31	帯広市	46,993名 (53.6%)	87,671世帯
32	釧路市	68,691名 (72.6%)	94,654世帯
33	根室市	7,949名 (62.8%)	12,666世帯
34	別海町	5,156名 (77.1%)	6,689世帯
35	中標津町	7,159名 (63.9%)	11,201世帯
36	登別市	16,931名 (68.1%)	24,858世帯
37	恵庭市	17,325名 (52.0%)	33,317世帯
38	むかわ町	4,191名 (100.2%)	4,183世帯
表記以外の市町村合計		265,388名 (59.7%)	444,211世帯



年度別組合員動態

年度	項目	組合員数 (人)	前年比増加数 (人)	増加率 (%)	
				前年比	2014年度比
2014		1,543,280	52,640	105.3	100.0
2015		1,596,125	52,845	103.4	103.4
2016		1,654,657	58,532	103.7	107.2
2017		1,709,000	54,343	103.3	110.7
2018		1,762,681	53,681	103.1	114.2
2019		1,811,207	48,526	102.8	117.4

※2014年3月20日、住所不明・未利用者696名を法定脱退処理しました。
 ※2015年3月20日、住所不明・未利用者308名を法定脱退処理しました。
 ※2016年3月20日、住所不明・未利用者176名を法定脱退処理しました。
 ※2017年3月20日、住所不明・未利用者434名を法定脱退処理しました。
 ※2019年3月21日、住所不明・未利用者2,800名を法定脱退処理しました。
 ※2020年3月20日、住所不明・未利用者1,236名を法定脱退処理しました。

札幌市行政区別組合員組織率

行政区	組合員数 (組織率)	総世帯数
中央区	52,699名 (37.2%)	141,734世帯
北区	91,899名 (60.5%)	151,891世帯
東区	68,403名 (48.1%)	142,078世帯
白石区	76,705名 (62.8%)	122,062世帯
豊平区	68,654名 (54.2%)	126,579世帯
南区	63,130名 (87.1%)	72,502世帯
西区	66,298名 (58.1%)	114,066世帯
厚別区	40,350名 (62.0%)	65,096世帯
手稲区	48,293名 (69.7%)	69,249世帯
清田区	33,892名 (63.7%)	53,174世帯

※札幌市行政区を限定しない組合員さんが2名いらっしゃいます。

事業所数と形態

本部

本部	1
地区本部	8(札幌、帯広日高、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館、旭川)

店舗

107店舗(2020年3月20日現在)28市20町

札幌市	25店舗	留萌市	1店舗	白糠町	1店舗
江別市	2店舗	函館市	8店舗	中標津町	1店舗
北広島市	2店舗	北斗市	1店舗	北見市	3店舗
石狩市	1店舗	苫小牧市	5店舗	網走市	1店舗
千歳市	2店舗	伊達市	1店舗	遠軽町	2店舗
小樽市	3店舗	木古内町	1店舗	美幌町	1店舗
余市町	1店舗	幕別町	1店舗	帯広市	2店舗
倶知安町	1店舗	むかわ町	1店舗	室蘭市	2店舗
岩見沢市	2店舗	白老町	1店舗	赤平市	1店舗
美幌市	1店舗	新ひだか町	1店舗	別海町	1店舗
夕張市	1店舗	浦河町	2店舗	登別市	3店舗
旭川市	6店舗	えりも町	1店舗	恵庭市	1店舗
深川市	1店舗	様似町	1店舗	福島町	1店舗
砂川市	1店舗	釧路市	6店舗	羽幌町	1店舗
滝川市	1店舗	根室市	1店舗	知内町	1店舗
富良野市	1店舗	釧路町	1店舗	大樹町	1店舗

コープ宅配システムドックセンター

35センター13デポ(2020年3月20日現在)

移動販売車

93台(全道131市町村)

生産工場

江別生鮮加工センター

リサイクル施設

エコセンター

葬儀場

フリエホールつきさむ

フリエホールしんことに

関係会社

株式会社エネコープ

株式会社ドック電力

コープフーズ株式会社

株式会社ドリームファクトリー

北海道はまなす食品株式会社

北海道ロジサービス株式会社

マテハンエンジニアリング株式会社

株式会社大雪水資源保全センター

株式会社コープトラベル

デュアルカナム株式会社

コープトレーディング株式会社

コープ協同保険株式会社

シーズ協同不動産株式会社

2019年度の新工事

店舗	2019年7月	しりうち店
	2019年10月	なかのしま店
	2019年11月	たいぎ店 しんことに店

宅配	2019年9月	石山センター
		本別デポ
	2019年10月	黒松内デポ
		2019年11月

コープさっぽろの活動に対する期待と意見



学校法人札幌慈恵学園
札幌新陽高等学校 校長

荒井 優氏

つなぐ

「なんでこんなところにあるんだろう？」

初めてコープさっぽろの本社に行くときに思ったことだ。

全道107店舗、事業高2,806億円、従業員数1万人以上と北海道有数の事業体であるコープさっぽろの本社は西区発寒の住宅街の中にある。車を駐車場に停めて中に入ると、何やら活気がある。仕切りが少なく、見晴らしが良い職場が目飛び込んでくる。どの部門からも全体が見渡せる作りをしていて、理事長や本部長などの役職者も皆と同じく席を並べて座っていた。中でも気に入ったのは、すべての職員が名前をひらがなで大きく書いたネームプレートをしていることだ。理事長も「おおみ」と書いたプレートをいつも付けているのは、可愛らしいし、わかりやすいし、馴染みやすい。

このように自由な雰囲気の本社オフィスは、元店舗を居抜きで利用しているのだという。それも不採算だった店舗とのこと。なるほど、この本社に来てみて、コープさっぽろが「生活協同組合」なのだということが分かる。市民としての私達一人ひとりが理想とする食品や日用品を買う場所を、みんなの手で創り出し、運営するのが「cooperative(コーポラティブ)」という「コープ(CO・OP)」の語源になる。その意味では、株主利益のためにある株式会社立のスーパーマーケットとは存在意義が全く異なる。

学校で例えば、PTA(保護者と教師の会)が自主運営する学校の様なものかもしれない。学校の中身も人事も行事も予算配分も集金もすべてPTAで運営する学校。それは保護者にとっては理想的でもあり、また大変でもあり、そして、思い入れがとても強くなるのではないだろうか。それを自然体に成し遂げているのが、「生活協同組合」としての「コープさっぽろ」なのだということを、この本社に来てみて強く実感した。

それは、一言で言えば「つなごうとする意志」がみなぎっていた。

今回、「コープさっぽろのCSRレポート」の最終ページを書くという宿題を頂いた。コープさっぽろには、いわゆる「会社案内」は無く、このレポートをもって全体を説明すると聞いていたので、今、手元にある過去3年分を2回読んだのだが、正直、よくわからなかった。ちょっと手厳しく言わせてもらえば、本紙は「だれのための、何のための、どのような時のためのもの」なのか？ 確かに沢山の説明はしているのだが、あの「つなごうとする意志」が感じられて来ないのはなぜなのか？ そもそも、全ての組合員にとって、「CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)」という言葉は馴染みはあるのだろうか？ そんなことを感じた。わざわざこの場所で書く必要があるのかどうか相当に悩んだが、でも、こういう役目を期待されているのではないかと考えた。それをあの本社に訪問した際の雰囲気に感じたからだ。コープさっぽろの使命には「安心」と「革新」という二語が並ぶ。そうだ、常に革新(イノベーション)を求める組織がそこにあった。

本紙は、誰のために、何のために、「つなぐ」のか。

ひょんなことから、本文章を書かせて頂く機会を得たので、大好きで尊敬するコープさっぽろの方々の顔を思い浮かべながら、この問いを来年の本紙へのタスキとして「つなぐ」たい。

追記

本紙を読むとコープさっぽろのこの数年のCO₂排出量の削減は大きな効果が出ていることがわかります。世情では新型コロナウイルスへの対応が喫緊の課題ではありますが、地球温暖化対策は今を生きる全ての人類が未来への責任として取り組む最重要事項であり続けています。担当部署の絶え間ない努力に、惜しみない感謝の気持ちを贈りたいと思います。



コープさっぽろ 秘書室

札幌市西区発寒11条5丁目10-1 〒063-8501
TEL.011-671-5602

